



Title	中国語の再帰代名詞”自己”に関する一考察
Author(s)	鄭, 浩雯
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2025, 2024, p. 33-42
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102183
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

中国語の再帰代名詞“自己”に関する一考察

Zheng Haowen

1. はじめに¹

Tang (1989) や Huang & Liu (2001) によれば、中国語の“自己”「自分」の先行詞は“自己”「自分」を c 統御しなければならないこと、また、先行詞は主語指向性と有生性といった特徴がある。しかし、中国語では、これらの特徴、特に c 統御関係と主語指向性に反した例も存在する。例えば、(1) と (2) のような例が挙げられる。

- (1) 自己_i 的 孩子 没 考 好 的 事 使 张三_i 很 苦恼。
自分 の 子供 ない 受験する いい の こと させる 張三 とても 悪む
「自分の子供が良い成績を取らなかったことが張三を悩ませた。」
- (2) 张三_i 做事 小心的态度 救了 自己_i。
張三 仕事をする 慎重な態度 救った 自分
「張三の慎重な態度は自分を救った。」

(Tang 1989: 96)

本稿の目的は Charnavel (2020) を用いて、(1) と (2) のような文における“自己”「自分」の先行詞の選択について議論を行い、そして、中国語において再帰代名詞の先行詞の選択差を説明することも試みる。

2. 理論的な仕組み²

Charnavel (2020) はフランス語の照応形 *lui-même* ‘himself’ と *son propre* ‘his own’ について、照応形がどのように先行詞を取るのかについて説明した。そして、その照応形を含む領域はその照応形の先行詞の視点を表さなければならないと主張した。

Charnavel (2020) によれば、領域³外の先行詞を取ることができる除外的照応形の先行詞になれるのは、態度の持ち主 (attitude holder) と視点の置き場 (empathy locus) しかない。フランス語における先行詞の分類とそれぞれの分別方法は表 1 になる。

¹ 本稿での中国語の日本語訳文は全て筆者が翻訳したものである。

² 本節以降でのフランス語のグロスは筆者がフランス語の知識を有する者からアドバイスを受け記載した。また一部は Wiktionary を用いて付けたものである。

³ Charnavel (2020) によれば、照応形の束縛領域は phase である。

表1 フランス語における除外的照応形の先行詞の分別方法

ロゴフォリック先行詞	ロゴフォリック領域	テスト
態度の持ち主	De se 態度	反態度的エピセット (anti-attitudinal epithets)
視点の置き場	第一人称知覚 (First person perception)	視点を表す <i>son cher</i> 'her dear' (Empathic <i>son cher</i> 'her dear')

(Charnavel 2020: 681)

まず、エピセットテストの根拠について説明する。Dunbinsky & Hamilton (1998) では、視点の持ち主 (perspective-bearer) はエピセットの先行詞になれないため、エピセットはアンタイロゴフォリック (antilogophoric) であると結論付けた。

- (3) a.*According to John_i, the idiot_i is married to a genius.
- b. Speaking of John_i, the idiot_i is married to a genius.
- (4) a.*John_i told us of a man (who was) trying to give the idiot_i directions.
- b. John_i ran over a man (who was) trying to give the idiot_i directions.

(Dunbinsky & Hamilton 1998: 688)

(3a) と (4a) の *John* は視点の持ち主であり、エピセットである *the idiot* の先行詞になることができない。一方、(3b) と (4b) の *John* は視点の持ち主ではないため、エピセットである *the idiot* の先行詞になることができる。

Charnavel (2020) では、フランス語のエピセットも同じ特徴があると述べられている。故に、態度文では、もし先行詞と同一指示を持つ照応形がエピセットに置き換えると、文は非文法になり、その先行詞は態度の持ち主であると推測することができる。

以上を踏まえると、先行詞は態度の持ち主であるかどうかの弁別方法は (5) になる。

(5) エピセットテスト

- a. 除外的照応形は、もしそれを同一指示のエピセットと置き換えた場合に文が容認出来なくなるのであれば、容認される。
- b. 除外的照応形は、もしその領域に同一指示のエピセットを挿入するとその文が容認されなくなるのであれば、容認される。

(Charnavel 2020: 684)

(6) はこのテストを使う具体例である。

- (6) a. Robert_i dit que son_{i/k} rival a voté pour son_i propre projet.
 Robert say that his rival AUX vote for his own project
 ‘Robert_i says that [his_{i/k} rival voted for his_i own project].’
- b. Robert_i dit que son_{i/k} rival a vote pour le projet de [cet idiot]_{*i/k}.
 Robert say that his rival AUX vote for the project of this idiot
 ‘Robert_i says that [his_{i/k} rival voted for [the idiot]_{*i/k}’s project].’
- c. Robert_i dit que le rival de [cet idiot]_{*i/k} a voté pour son_i propre projet.
 Robert say that the rival of this idiot AUX vote for his own project
 ‘Robert_i says that [the rival of [the idiot]_{*i/k} voted for his_i own project].’

(Charnavel 2020: 685)

(6a) では、代名詞である *son* ‘his’ は、主節主語 *Robert* あるいは他の男性を指すことができる。また、照応形である *son propre* ‘his own’ は主節主語 *Robert* を指すことができる。

(6b) において、除外的照応形 *son propre* ‘his own’ をエピセット *cet idiot* ‘this idiot’ に変更すると、*cet idiot* ‘this idiot’ は主節主語 *Robert* を指すことができなくなるため、(5a) によれば、(6b) の *Robert* は態度の持ち主とみなされる。そして、(6c) では、除外的照応形を含んでいる書き出し領域内にある *son rival* ‘his rival’ は、エピセットを含む *le rival de cet idiot* ‘the rival of this idiot’ に変えると、主節主語 *Robert* を指すことができない。(5b) によって (6c) の *Robert* は態度の持ち主であることが分かる。

次は、先行詞が視点の置き場である場合について説明する。表 1 によれば、除外的照応形が視点の置き場を先行詞として取る場合には、視点投射はその先行詞の視点からしたものである。そして、その視点投射内での *son cher* ‘her dear’、つまり、*cher* ‘dear’ はその視点の置き場からの評価である。

また、Charnavel (2020: 691) では、*son cher* ‘her dear’ は皮肉表現としても使われることが指摘されている。

- (7) Jérôme_i va aller render visite à sa_i chère cousine (qui profite
 Jerome be.going.to take a visit to his dear cousin who take.advantage
 de lui).
 of him

‘Jerome_i will visit his_i dear cousin (who takes advantage of him).’

ここで内部視点である *Jérôme* の内心感情を表す *sa chère* ‘his dear’ は、話者は *Jérôme* の視点を取らなければならないが、実際に、そうはならないという解釈も可能である。このように *Jérôme* の内心感情と話者の考えの間に感情衝突を起こるため、皮肉表現が現れる。つまり、*sa chère* ‘his dear’ の評価を出すには、話者は必ず視点の置き場である先行詞と視

点共有しなければならないのである。従って、*son cher* ‘her dear’ テストによって、文の視点の置き場を確定することができる。

(8) *son cher* ‘her dear’ テスト

- a. 除外的照応形は、もしそれを同一指示の *son cher* ‘her dear’ と置き換えた場合に文が容認されるのであれば、容認される。
- b. 除外的照応形は、もしその領域に同一指示の *son cher* ‘her dear’ を挿入するとその文が容認されるのであれば、容認される。

- (9) Le courage de Paul_i a sauvé des flammes à la fois sa_i propre maison,
the courage of Paul AUX save of.the flameat at the time his own house
celle de ses_i chers enfants, et celle des voisins de [ce héros]_i.
that of his precious child and that of-the neighbor of this hero
'Paul_i's courage saved from the fire his_i own house, his_i dear children's house, and [the hero]_i's
neighbors' house.'

(Charnavel 2020: 691-692)

(9) からわかるように、エピセットである *ce héros* ‘this hero’ は *Paul* を指すことができる
ので、(5) によれば、*Paul* は態度の持ち主ではない。そして、*ses chers* ‘his precious’ は
Paul から出した評価であるため、*Paul* は視点の置き場になり、照応形の先行詞になること
ができる。

さらに、Charnavel (2020) は、純粋な空間的表現 (spatial expressions) のセンターは除外的照応形の先行詞になれないと指摘した。

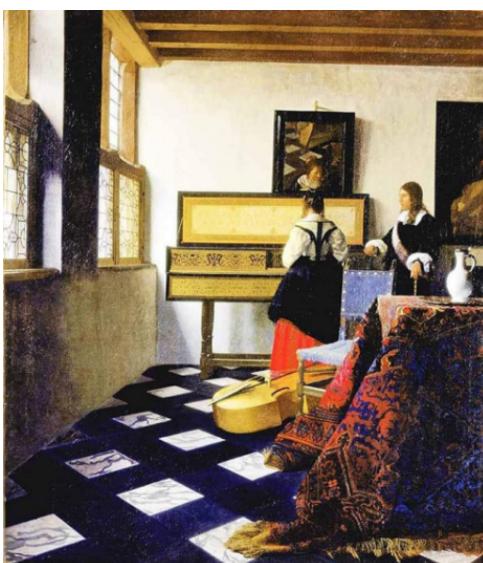


図1 ヨハネス・フェルメール 『音楽の稽古』 1662-1665

- (10) A la droite du professeur, un portrait de lui (*-même) est accroch
 At the right to.the teacher a portrait of him self is hang.up
 au-dessusé de l' épinette.
 above of the virginal

‘To the right of the teacher, a portrait of him(*self) hangs above the virginal.’

(Charnavel 2020: 696)

- (10) は図 1 に基づき、作られた文である。(10)において、ダイクシスセーターである *professeur* ‘teacher’ は代名詞である *lui* の先行詞になるが、再帰代名詞である *lui-même* ‘himself’ の先行詞になることはできない。つまり、空間表現だけを表す文では、照応形は空間表現のセーターである名詞句を取ることができない。また、Charnavel (2020) はフランス語において、心理動詞を使う文は態度文を作ることができないと指摘した。

- (11) Les méchants commentaires des internautes sur {a. lui-même / b. [le pauvre
 the bad comment of.the Internet-user on him-self the poor
 homme]}; ont atteint le moral de Marc.
 man AUX reach the moral of Marc

‘The net surfers’ mean comments about a. himself / b. [the poor man] affected Marc’s morale.’

(Charnavel 2020: 690)

- (11) のエピセット *le pauvre homme* ‘the poor man’ は *Marc* を指すことができるため、先行詞である *Marc* は態度の持ち主ではなく、視点の置き場である。

3. 分析

3.1 除外的照応形の先行詞のテスト方法

3.1.1 エピセットテスト

エピセットのアンタイロゴフォリシティーは英語とフランス語だけではなく、中国語にもあると言われている (Liu 2004)。

- (12) a. *根据 张三，的 说法，这小子，要 跟 一位 天才 结婚。
 による 張三 の 言い方 こいつ する と 一位 天才 結婚
 「張三の言い方によると、こいつは天才と結婚する。」
- b. 谈到 张三，这小子，竟然 要 跟 一位 天才 结婚。
 といえば 張三 こいつ なんと する と 一位 天才 結婚
 「張三はといえば、こいつはなんと天才と結婚する。」

- (13) a. *张三 向 我们 提到 一个 试图 给 这小子 指引 方向 的 老人。
 張三 に 私たち 話す 一個 試す に こいつ 教える 方向 の 老人
 「張三は、私たちにこいつに指示を与えようとしているお年寄りのことを話した。」
- b. 张三 开车 撞到了 一个 试图 给 这小子 指引 方向 的 老人
 張三 運転 はねた 一個 試す に こいつ 教える 方向 の 老人。
 「張三は、車でこいつに指示を与えようとしているお年寄りをはねた。」

(Liu 2004: 279)

(12) と (13) の例から分かるように、中国語ではエピセットはアンタイロゴフォリック的なものである。そして、フランス語と違い、Charnavel (2020) の分類方法では中国語における心理動詞文での先行詞は、態度の持ち主とみなされる。

- (14) a. 自己 的 孩子 没 考 好 的 事 使 张三 很 苦恼。
 自分 の 子供 ない 受験する いい の こと させる 張三 とても 悩む
 「自分の子供が良い成績を取らなかつたことが張三を悩ませた。」
- b. *这小子 的 孩子 没 考 好 的 事 使 张三 很 苦恼。
 こいつ の 子供 ない 受験する いい の こと させる 張三 とても 悩む
 「こいつの子供が良い成績を取らなかつたことが張三を悩ませた。」

(14a) の “自己” “自分” は “张三” “張三” を指すことができるが、エピセットである “这小子” “こいつ” に変えると、“张三” “張三” を指すことができなくなる。従って、中国語において、心理動詞文は態度文である。

3.1.2 「愛しい」 テスト

中国語では「愛しい」に相当する言葉は、“心愛的” 或いは “可爱的” である。これらの表現はフランス語と同様に、皮肉表現として使われる。

- (15) 张三 会 去 看望 心爱 的 侄子。
 張三 会 行く 訪ねる 愛しい の 倍
 「張三は愛しい甥を訪ねていく。」

(15) では、話者は “张三” “張三” の甥を愛しいと思う必要がなく、またその甥が嫌がっていることもあり得る。しかし、この文は “张三” “張三” の視点からなり、“张三” “張三” はその甥を愛しいと思っているので、話者は「愛しい」という表現を使ったことが分かる。故に、中国語では「愛しい」 テストにより、視点の置き場を弁別することができる。

3.1.3 ダイクシスセンター

Oshima (2006) に基づき、Charnavel (2020) は、主に二種類のダイクシスセンターがあると結論付けた。一つ目は「行く (go)」や「来る (come)」のような移動動詞 (motion verbs) が作ったセンターで、もう一つは「～の右側」のようなダイクシス方位表現 (deictic angular expressions) が作ったセンターである。

まず、ダイクシス方位表現に関するることを説明する。

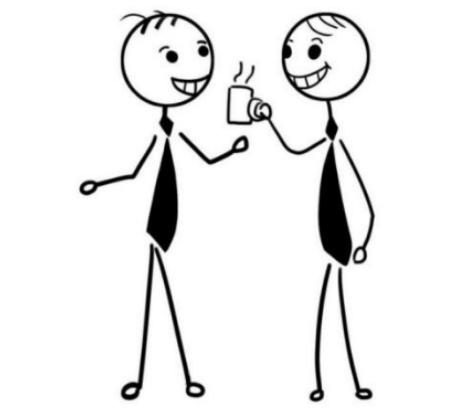


図2 話をしている二人

図2の二人が話している。コップを持つ人はAで、コップを持たない人はBと仮定する。そして、Bをダイクシスセンターとし、“自己”「自分」を含む文を作つてみると、(16)になる。

- (16) *在 B_i 的 左邊, 自己_i 的 同事 拿着 一个 杯子。
に B の 左側 自分 の 同僚 持つて いる 一個 コップ
「Bさんの左側に、自分の同僚はコップを持っている。」

(16) は非文法的になる。つまり、中国語では、ダイクシス方位表現が作ったダイクシスセンターは除外的照応形“自己”「自分」の先行詞になれない。

次は移動動詞について説明する。まず、移動動詞を使う場合、移動動詞の視点センターは常に態度の持ち主や視点の置き場と繋がっていると仮定する。すると、話し手は視点センターにいて、その文の態度の持ち主や視点の置き場が視点センターにいないのであれば、文は非文法的になることが予測できる。(17) は予測通りの結果になる。

- (17) 张三_i 害怕 坏天气 会阻止 自己_i 的 儿子 来 北京。
张三 恐れる 悪天候 阻止する 自分 の 息子 来る 北京
「张三は悪天候で自分の息子が北京へ来られないことを恐れている。」
(i) 张三が北京にいる

(ii) *張三は北京にいないが、話者が北京にいる

(Charnavel 2020: 704; 訳文は筆者が翻訳)

(17) のような中国語の文が示したように、移動動詞が作ったダイクシスセンターは必ず態度の持ち主或いは視点の置き場になる。

以上を踏まえて、中国語の除外的照応形に関するロゴフォリックセンターの分類は表 2 になる。

表 2 中国語においての除外的照応形に関するロゴフォリックセンターの分類

Charnavel (2020)	態度の持ち主	視点の置き場	ダイクシスセンター
筆者の主張	態度の持ち主	視点の置き場	ダイクシスセンター

3.2 適用

まず、(14) で示したように、心理動詞を使う例において、“自己”「自分」の先行詞は態度の持ち主とみなされるため、“自己”「自分」の先行詞になることができる。

次は sub 統御の例について説明する。

(18) a. [张三: 做事 小心的态度] 救了 自己。

张三 仕事をする 慎重な態度 救った 自分

「张三の慎重な態度は自分を救った。」

(2 再掲)

b. 张三: 做事 小心的态度 救了 这小子。

张三 仕事をする 慎重な態度 救った こいつ

「张三の慎重な態度はこいつを救った。」

c. 张三 做事 小心的态度 救了 心爱的 小花。

张三 仕事をする 慎重な態度 救った 愛しい 小花

「张三の慎重な態度は愛しい小花を救った。」

(18b) はエピセットテストを用いた文であり、“这小子”「こいつ」は“张三”「張三」を指すことができるため、“张三”「張三」は態度の持ち主ではない。また、(18c) は「愛しい」テストを用いた文であり、“心爱的”「愛しい」という評価を出す人は“张三”「張三」とみなされ、“张三”「張三」は視点の置き場である。故に、(18a) が示したように、“张三”「張三」は“自己”「自分」の先行詞になることができる。

さらに、Charnavel (2020) によれば、照応形を含む領域はその照応形の先行詞の視点を表さなければならない。中国語では“来”「来る」という動詞は話者の視点が終点に近い時に使う傾向があり、“去”「行く」は話者の視点が出発点により近い時が使いやすいのであ

る。先行詞である“李四”「李四」は終点にいるため、“李四”「李四」の視点を表している修飾節にある動詞も“李四”「李四」の視点を表す“来”「来る」を使うのが合理的であると考えられる。

- (19) a. 当 张三 来 看望 自己_i 的 时候, 李四_i 很 高兴。
時 張三 来る 見る 自分 の 時 李四 とても 嬉しい
「張三が自分を見に来る時に李四はとても嬉しいそうだ。」
- b. ??当 张三 去 看望 自己_i 的 时候, 李四_i 很 高兴。
時 張三 行く 見る 自分 の 時 李四 とても 嬉しい
「張三が自分を見に行く時に李四はとても嬉しいそうだ。」

4. 結論と今後の課題

4.1 結論

本研究は、Charnavel (2020) の分析方法が中国語に適用できるか、そして、“自己”「自分」がどのような先行詞を取るかについて考察を行った。

中国語の“自己”「自分」は、フランス語の *lui-même* ‘himself’ と *son propre* ‘his own’ と同様に、態度の持ち主と視点の置き場しか先行詞として取ることができない。そして、態度の持ち主を弁別するエピセットテストと、視点の置き場を弁別する「嬉しい」テストは、中国語においても共通である。しかし、フランス語と違い、中国語では心理動詞文での先行詞は視点の置き場ではなく態度の持ち主である。更に、これらのテストを用いることで、“自己”「自分」がその先行詞に関して示す制約を説明できる。

4.2 今後の課題

Charnavel (2020) では、フェーズに基づき、束縛条件 A を再定義した。このような定義を中国語に適用できるかどうかについて分析する必要がある。

略語一覧

AUX auxiliary

参考文献

- Baker, Mark C. and Shiori Ikawa (2022) Control theory and the relationship between logophoric pronouns and logophoric uses of anaphors. Ms., Rutgers University & Fuji Women's University.
- Charnavel, Isabelle (2019) *Locality and Logophoricity: A Theory of Exempt Anaphora*. Oxford: Oxford University Press.
- Charnavel, Isabelle (2020) Logophoricity and Locality: A View from French Anaphors. *Linguistic Inquiry* 51: 671-723.
- Charnavel, Isabelle and Dominique Sportiche (2016) Anaphor binding: What French inanimate anaphors show. *Linguistic Inquiry* 47 (1): 35-87.
- Dubinsky, Stanley and Robert Hamilton (1998) Epithets as antilogophoric pronouns. *Linguistic Inquiry* 29: 685-693.
- Huang, C.-T. James and C.-S. Luther Liu (2001) Logophoricity, Attitudes, and *Ziji* at the Interface. In *Long-Distance Reflexives*, edited by Peter Cole, Gabriella Hermon, and C.-T. James Huang, 141-192. New York, NY: Academic Press.
- Kameyama, Megumi (1984) Subjective/Logophoric Bound Anaphor *Zibun*. *Papers from the Twentieth Regional Meeting of Chicago Linguistic Society*, 228-38.
- Kuno, Susumu (1972) Pronominalization, Reflexivization, and Direct Discourse. *Linguistic Inquiry* 3: 161-195.
- Liu, Chen-Sheng Luther (2004) Antilogophoricity, Epithets and the Empty Antilogophor in Chinese. *Journal of East Asian Linguistics* 13: 257-287.
- Miyake, Sayuri, and Mari Sakaguchi (2015) Antilogophoricity of Japanese Epithets. *Immaculata* 19: 75-88.
- Oshima, David Y. (2007) On empathic and logophoric binding. *Reseach On Language And Computation* 5: 19-35.
- Sells, Peter (1987) Aspects of logophoricity. *Linguistic Inquiry* 18: 445-479.
- Tang, Chih-Chen Jane (1989) Chinese Reflexives. *Natural Language and Linguistic Theory* 7(1): 93-121.
- 西垣内泰介 (2014) 「エンパシーと阻止効果 ——「自分」の束縛と「視点投射」——」『言語研究』 146: 109-133.